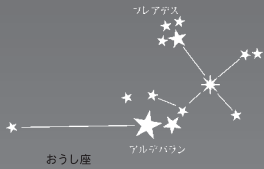


ポラリスを仰ぐ北の大地から



留萌の現況

留萌医師会 会長 川上 康博

留萌医師会は留萌市、羽幌町、苫前町、小平町、増毛町、初山別村からなる37名の一般社団法人です。

道立羽幌病院、留萌市立病院を基幹病院としてさまざまに協力連携しながら地域医療を支えています。

留萌市立病院では医師不足解消問題を抱えながら、総合内科医養成、地域医療教育研究センターを設立し、札幌医科大学の医学生の臨床実習を受け入れ、人材育成と将来的な医師確保対策を目指しています。

道北ブロックでは旭川市医師会の山下会長のご尽力により、旭川赤十字病院、市立旭川病院、旭川厚生病院、旭川医療センター、旭川医大の5病院が核となり、留萌市立病院、名寄市立総合病院、富良野協会病院と地元医療機関が、患者情報を地元で共有できる画期的な「たいせつ安心 i 医療ネット」が運用されました。患者さんが地元医療機関を受診し、さらに必要な検査・治療を中核病院で安心して受けられる医療資源を共有する広域化システムです。

留萌管内の人口は昭和30年代の14万人をピークに減少し、現在は5万人と激減しております。昨年留萌市は公示土地価格下落率全国2位、今年は全道1位という本当に疲弊した経済状況です。私の医院も28年前開業した当時とは全く違ってしまった環境、医療保険、介護保険の対応に右往左往しながら日々の診療に追われております。

こんな中、管内の宣伝をさせていただくと、羽幌町の甘エビ、小平町のホタテ、増毛町の地酒と果物、留萌市の数の子と3年連続全国米・食味分析鑑定コンクール金賞受賞ななつぼしのように、それぞれの地で特徴を生かして頑張っており取り組んでおります。

私も急激な人口減少、高齢化のなか医療、介護に微力ながら貢献できるよう取り組んでいきたいと思っております。



瞰望岩（がっぽういわ）

遠軽医師会 会長 田中 実

札幌・網走を結ぶ列車「オホーツク」は遠軽駅で進行方向が逆になり、座席の回転を促す車内放送が流れます。そんなとき車窓から見える大岩が町のシンボルでもある瞰望岩です。アイヌ人の古戦場となったという伝説もあり、アイヌ語で「インカルシ（見晴らしの良い場所）」と呼ばれ、「えんがる」という町名の由来と言われています。地上から頂上までの高さは約78mあり、町内のどこからでも見ることができ、場所や時間によって岩の表情も変わります。

頂上まで車で行けますが、駅から近い遠軽神社の裏側に小道が整備され歩行でも十数分で上ることができます。ただし高校時代には運動部員がこの小道を駆け上ってトレーニングをしたほどの勾配があり、私も駆け上がった記憶がありますが、時が過ぎ体型も変わった今では歩いて上るだけでも息が切れてしまいます。苦勞して上ったとしても、頂上からは町内全域のみならず周囲の山々まで見渡す美しい眺望が広がり、息を切らした価値は十分にあります。頂上には小さな休憩所や展望台がありますが、安全柵は設置されておらず、岩の端まで行くにはそれなりの覚悟と勇気が必要です。子どもの頃は岩の端にうつぶせになり下を覗いたものですが、さすがに今ではそんな危険なことをする子どもはいません。

瞰望岩は北海道自然百選にも選ばれており、平成23年には国指定名勝「ピリカノカ」の構成資産としてオホーツク管内で初めて指定されました。岩の後方には「太陽の丘えんがる公園」が広がり、春には芝桜が、秋にはコスモスが一面に咲き誇りその広さは日本最大級といわれています。道央道とは比布JCTから高規格道路が伸びて、交通の便も良くなりました。これからの季節は山の幸や海の幸がぞくぞく登場しますから、ドライブついでに目と胃の保養に立ち寄りください。